

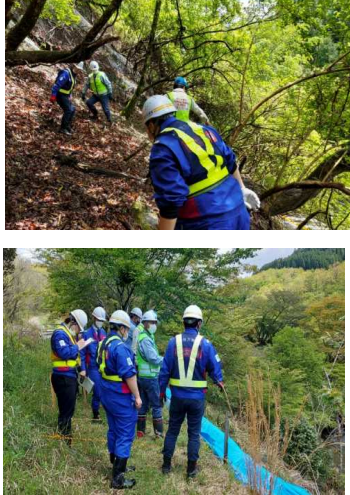


## 防災エキスパート(平常時レポーター)活動報告書




所属地区	大分地区	氏 名	山中 元弘・渡辺 幹夫
活動地区	大分河川国道Ⅰ大分維持(出)管内Ⅱ中津維持(出)管内Ⅲ日田国道維持(出)管内		
活動年月日	Ⅰ 令和5年4月28日(金)Ⅱ 4月27日(木)Ⅲ 4月26日(水)		
活動内容	<p><b>大分河川国道事務所 管内 梅雨期前の安全点検</b></p> <p><b>Ⅰ. 大分維持出張所管内</b></p> <p>参加者:大分河川国道(事):河野道路管理2課長、山田維持修繕係長、尾花出張所長、他 大分防災エキスパート会:春田、西、佐藤、矢野、河野、山中</p> <p>点検場所:①R10 154K230～154k500(下り)、②R10南バイパス147K460～147K550(中央)</p> <p>エキスパート会等参加者の意見</p> <p>① 湧水処理として打ち込み式水抜きパイプ等による対応を提案。段丘地形であり礫層等による通水層があると考えられるため地質調査データの確認を行うのが良い。</p> <p>② 溪流からの流木及び土砂流下に伴い過年度に法面吹付け、土砂溜めポケット・土のう・布団かごは対応済み。排水口の流入面積を増加させる対策として4面スクリーンとする対策も考えられる。</p> <p><b>Ⅱ. 中津維持出張所管内</b></p> <p>参加者(事務所) 塚原出張所長、吉次係長 エキスパート会 松本、篠原、渡辺</p> <p>点検場所:①R10 88k620～88k640上り(宇佐市西屋敷)、②R1079k500～79k700下り(宇佐市法鏡寺)</p> <p>エキスパート会等参加者の意見</p> <p>① ・過年度に設計した隣接の法面湧水箇所と併せ、早めの対策実施が望まれる。 ・被災法面上部に境界杭が存在。官民境界の再確認が必要。</p> <p>② ・過年度(R3)に対策工の設計完了箇所。予算獲得も厳しい中、毎年の法面除草にもコストがかかっていることから、早めの実施が望まれる。</p> <p><b>Ⅲ. 日田国道維持出張所管内</b></p> <p>参加者(事務所) 久賀総括保全対策官、大林保全対策官、白肌専門官、地下出張所長 他 エキスパート会 春田、篠原、渡辺</p> <p>点検場所:R210 ①85k025付近九重町野上 ②91k500付近湯布院町川西 ③93k300付近湯布院町川北</p> <p>エキスパート会等参加者の意見</p> <p>① ・被災法面はブルーシート養生を行っているが、法面上部からの雨水進入を防ぐため平場部分にもブルーシート養生の範囲を広げられないか要検討。</p> <p>② ・落石防護金網の老朽化(腐食による破れ)が進行、抜本的な対策工法の検討を要するが、それまでは定期的な点検強化が必要と考える。</p> <p>③ ・法面の自然木伐採は被災時に実施済であるが、倒木の危険性のある自然木が数本法肩等に残されているので、早めの除去が望ましい。</p>		
活動写真	<p>大分維持管内</p> 	<p>中津維持管内</p> 	<p>日田国道維持管内</p> 

## 防災エキスパート(平常時レポーター)活動報告書





所属地区	大分地区	氏 名	河野 浩憲 ・ 山中 元弘
活動地区	佐伯河川国道事務所 竹田維持(出)管内 I. R10号 II. 中九州道・R57号		
活動年月日	I. 令和5年5月24日(水) II. 5月25日(木)		
活動内容	<p>佐伯河川国道事務所 竹田維持出張所管内 法面等安全点検</p> <p>I. 国道10号(上り)</p> <p>・参加者:事務所:平川道路管理課長、稲田保全対策官、鶴田出張所長 他 大分エキスパート会:西、北平、宮崎、矢野、添田、河野</p> <p>点検場所 ①佐伯市宇目地先(218k付近) ②佐伯市弥生地先(191K付近) ③臼杵市野津町地先(179K付近)</p> <p>エキスパート会等参加者の意見</p> <p>① 上部斜面からの落石が通常巡回(2日に1回)で報告されている箇所。小動物等の仕業も考えられるのでフェンスや土嚢を積み、併せて切土法面上方の無対策箇所もモルタル吹付けを実施する予定。巡回時に道路面の落石について頻度や大きさ等を観測するとともに梅雨前にカラーフェンスなど簡易な柵で応急的に処置しておくとの良い。</p> <p>② 2022.1の震度5強の地震で石積み擁壁の目地の開口部に拡大が見られた箇所。その後、開口部に開きは見られない。盛土法面部はモルタル吹付けし、鉄筋挿入で対策を予定。応急処置として水の浸入を防ぐためブルーシートで養生しているがシートの破損が見られたとの事なので今後、本復旧までは巡回等でこまめにシートの養生状況を確認し、水の浸入がないか確認すると良い。</p> <p>③ 2023.1に背後斜面より落石が有り、大型土嚢で応急処置している箇所。終点側に擁壁・防護柵があるのでそれを延伸して対策する予定。斜面上からの危険を伴う落石については下面でバウンドし、車道へ出る事も考えられるので対策(点検)エリアを起点側へ広げて有識者や地質コンサル等の意見を聞き、早めに設計に反映させ対策を行うとの良い。</p> <hr/> <p>II. 中九州道・国道57号</p> <p>・参加者:事務所:稲田保全対策官、鶴田出張所長、伊藤係長 他 大分エキスパート会:原田、石井、宮崎、北平、佐藤、添田、河野、山中</p> <p>点検場所 中九州道 法面洗掘箇所(24K付近) ①大型標識傾斜箇所(26K付近) 除草張コンのクラック R57号 ②民地法面崩壊箇所(39K付近) ③モルタル吹付法面崩壊箇所(40K付近)</p> <p>エキスパート会等参加者の意見</p> <p>① 打音から張コン下面は完全に浮いている。盛土本体に異常はなく防草用の張コンであることから、割れた部分が滑り落ちないように鉄筋等を打ち込み止め、クラックから水が入らないようにブルーシートを路肩側溝に巻き込む方が良い。</p> <p>② 今日崩壊法面上部まで登る事ができないが、一度上まで登り用水路の状況や法面途中に生じている段差部の確認をする必要がある。確認しこれ以上崩壊する要素がなければそのままでも良い。</p> <p>③ 未固結の溶結凝灰岩層がオーバーハングしクラックが発生しているが、方向的に直接道路に落ちることとは考えにくい。切土で落すことが一番の良策であるが、当面の対策として落ちた土砂の飛石等が道路に影響を与えないよう大型土嚢を2～3段積み防護する対策が良い。</p>		
活動写真等	<div> <div>I R10号 ①・②・③</div> <div>    </div> </div> <div> <div>II 中九州道① R57号② " ③</div> <div>    </div> </div>		





## 防災エキスパート(平常時レポーター)活動報告書

所 属 地 区	長崎支部	氏 名	今泉 敏彦
活 動 地 区	長崎河川国道事務所内		
活動年月日	令和 5 年 9 月 4 日(月)		
活 動 内 容	<p>長崎河川国道事務所における地震防災訓練</p> <p>1. 日 時 : 令和 5 年 9 月 4 日(月)</p> <p>2. 場 所 : 長崎河川国道事務所会議室</p> <p>3. 概 要 : ①管内で震度6弱の地震発生。</p> <p>②国道34号及び57号各1橋が落橋し、通行不可の被災想定。</p> <p>③職員は6班に分かれ復旧を目指し、対応策を検討する。</p> <p>④エキスパート会にて初期対応・応急復旧など助言を行う。</p> <p>※現地対策班、迂回路班、広報班、工法検討班等の行動及び関係機関、防災ドクター、エキスパート会との連携など確認した。</p> <p>4. 参加者 : 長崎河川国道事務所:高田統括保全対策官、金子建設専門官、総務課長、道路管理一課長、他職員34名</p> <p>防災エキスパート会長崎支部(5名)</p> <p>楠本、菅田、今泉、神崎、南部</p> <p>5. その他 : 初動対応から被災状況の確認・応急復旧検討など災害発生時に各職員が何を行うのか再確認する場となった。</p>		
活動写真等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">対応策など検討中の状況</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">エキスパート会による総評の状況</div> <div style="text-align: center;">  </div>		

## 防災エキスパート(平常時レポーター)活動報告書

所 属 地 区	大分地区	氏 名	山中 元弘
活 動 地 区	大分河川国道事務所		
活動年月日	令和5年9月1日(金) 8時30分～12時00分		
活 動 内 容	<p>令和5年度 地震防災訓練(道路)</p> <p>■場 所 大分河川国道事務所、日田国道維持・大分維持・中津維持出張所</p> <p>■参加者 大分河川国道事務所 河崎事務所長、甲斐副所長、久賀総括保全対策官 他 エキスパート会 春田、八木、總崎、渡辺、三浦、山中</p> <p>【訓練形態・支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所及び各出張所をTeamsにより常時接続。防災エキスパート会参加者においてもPCを準備</li> <li>・初動対応、情報伝達、応急復旧計画(大分維持管内)など、地震災害に係る一連の技術支援</li> </ul> <p>【防災エキスパート会からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■防災対応のリーダー役をしっかりと決めておく必要がある。</li> <li>■被災箇所には用水路があり通水時期にもあたるため現地状況に見合った対策検討が必要。</li> <li>■土砂の仮置場、捨土場所は事前に十分把握しておく必要がある。</li> <li>■一次、二次点検の各点検項目をしっかりと把握しておくこと。</li> <li>■R4.1.22「日向灘地震」発生時、発生直後の発表では大分中部・西部など管理区間を跨いだ発表となる。落ち着いて確認することが必要。</li> <li>■震度7級の地震となれば、出張所は誰も出勤できない等も考えられる。事前の対策を。</li> <li>■実際の地震時は複数箇所が被災のはず。交通網全体での情報収集が必要。孤立や人的被害の把握が優先。</li> <li>■収集した情報の蓄積・更新・共有をいかに混乱なくスムーズにできるかを考える必要がある。</li> <li>■ETC2.0をベースにした通れるマップが有効。</li> <li>■定時の防災会議、定時の記者発表を行い徐々に情報の精度を上げていくやり方が必要ではないか。</li> <li>■実際の地震時は、段差が多数発生する可能性がある。土嚢や鉄板等の保有状況を確認しておく必要がある。</li> <li>■安全確認は段階的に行うのが有効ではないか。①CCTV画像、②Exp、協定業者、③道路巡回の順に。</li> <li>■訓練の成果・反省を、次の訓練や本番につなげる事が大事。</li> <li>■エキスパート会会員もTeams接続により、防災室・出張所間の災害対策活動への協力体制が向上した。</li> </ul>		
活動写真等	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;"><b>事務所本部</b></p>  </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;"><b>大分維持</b></p>  </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;"><b>中津維持</b></p>  </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;"><b>日田国道維持</b></p>  </div> </div>		

## 防災エキスパート(平常時レポーター)活動報告書

所属支部	本部	氏名	光武 孝弘
活動地区	令和5年度 津波防災訓練(九州地方整備局)		
活動年月日	令和5年11月1日(水) 8時30分～		
活動内容	<p>1. 日時： 令和5年11月1日(水) 8:30～12:00(訓練) 13:00～14:10(振り返り会)</p> <p>2. 場所： 九州地方整備局8階 防災対策室ほか</p> <p>3. 出席者： 整備局長以下各部・各室、代表事務所(大分河川国道ほか) 関係機関:九州防災連絡会、 九州防災エキスパート会3名(大野誠、中山福德、光武孝弘)</p> <p>4. 活動内容(エキスパート会)</p> <p>①本部・支部・TEC-FORCE総合指令部及び 九州防災連絡会との情報共有訓練等への参加</p> <p>②統括防災官ほか防災官室メンバーとの振り返り会への参加</p> <p>＜エキスパート会からの主な発言＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練全体の進行、構成また要所でのフェーズや今どの段階かの説明は良かった。</li> <li>・津波の実被災経験がないことから被災の規模状況が実感しにくい(全体像がつかみづらい)。例えば、東九州全体の津波の規模や被災状況を示したうえで、今回訓練対象の大分県ではこのような状況だ。と云う流れで説明すると良い。</li> <li>・関係機関との情報共有会議を訓練に取り入れていることは良かった。 特に、九州経済産業局からの物資配送の話題など連携すべき内容もあった。</li> <li>・通れるマップは、各機関が最も知りたい情報である。訓練でも出していくべき。</li> <li>・災害協定の企業も被災している可能性大である。どの企業に依頼すべきかなど事前に考えておくことも必要。</li> <li>・資器材の保有状況の確認、不足しているものは補充することも大事。 ブルーシート、土嚢は必ず必要。被災地へのプッシュ型の提供も検討しておく。</li> <li>・東進の実動訓練は、各事務所で2年に1回は行ったほうが良いと考える。</li> <li>・管理施設の対応状況に関する報告がなされた。通行止めなど作業にあたる方の安全確保をいかに確保するか重要な課題。</li> <li>・災害対応状況などの情報発信は重要である。訓練でも取り込んでどうか。等</li> </ul>		
活動写真等	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>・ 津波防災訓練 本部会議出席</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>・ 防災官室と九州防災エキスパート会との振り返り</p> </div> </div>		